

企画展 「傍島幹司展」
そばしまみきじ
 樹間

5月27日に企画展「傍島幹司展 樹間」の開場式(テープカット)を行いました。挨拶の中で傍島幹司さんは、これまでの個展のエピソードなどを語り「今の自分があるのは多くの方の応援のおかげ。作品をできるだけじっくりと時間をかけて見ていただければ」と話しました。その後、お越しいただいた約60人の来場者にゆっくりと作品をご覧いただき、多くのご感想をいただきました。



開場式の様子

作品『秋の河原敷』の前では「この作品の緑が好き。赤に挟まれているから他の作品にあるのはまた違った緑に見える」と、傍島作品の色彩の魅力を感じていた

いただきました。

また、展示全体を見て回られた来場者からは「今まで画廊や他の美術館などいろいろな場所で傍島先生の作品を見てきたけれど、この空間の中では作品がコンクリートや白い壁に掛かっているのはまた違って見えていいですね」と作品と土の壁のある当館独特の場が作り出す雰囲気も楽しんでいただきました。

ただいま篠田桃紅美術空間では、関市に生まれ育ち、現在、子どもの頃遊んだ森や木や水をテーマに、制作を続ける傍島幹司さんの作品を展示しています。新作を含めた油彩作品、また雑木林や木立を描いた水彩画、ドローイングなど、森の中を散策するように、会場に広がる傍島作品の色彩の世界をお楽しみください。

- 会期：7月18日(月・祝)まで
- 入館料：高校生以上300円・中学生以下無料
- 休館日：月曜日(休日を除く)、休日の翌日(土・日・休日を除く)
- 開館時間：午前9時～午後4時30分
- 照会先：篠田桃紅美術空間
 (市役所7階) ☎ 7756



ともに自分らしく生きよう

男女共同参画社会

vol. 82

見える会話・文字の会話

ある調査によれば、最近の夫婦間のコミュニケーションは電子メールに頼りがちであることが分かりました。

夫婦間のコミュニケーションの手段で、いちばん多いのが電話、次にメールとなっており、若い世代ほどメールを多く使うことが分かりました。

情報機器の進歩により伝達方法が急速に変わりつつあるのが実情です。

現在、地域社会のつながりが希薄化しつつあるのと同じように、夫婦・家族の絆が薄れつつあります。こうした、情報機器に頼ったコミュニケーションの中では、男女共同の意識などはなかなか生まれにくいのではないかと思います。

文字によるやりとりだけではなく、生の声で面と向かって見える会話を、そうすることで相手の悩みや抱えている問題・不安・体調などが言葉の雰囲気でも分かる、肌でお互いを理解することができるのではないのでしょうか。そうしてお互いを思いやる気持ちが湧き、よい人間関係ができることで、男女共同の意識が義務的ではなく、自然に生まれてくるものと思います。

男女共同参画社会とはそうした心のつながり・絆を土台にして、その上に築かれていくのではないかと思います。

さんかくサポーター<F>



<照会先> さんかくサポーター事務局(まちづくり推進課内) ☎23-6831